

報告 特別講演会 + ラウンドテーブル どこにいったの建築の場の力

令和4年7月30日 15:30 ~ 16:50 「会場全体での意見交換」

まちづくり委員会

講演後のラウンドテーブルにて、

コメンテーターからの話題

- ◇ 都市計画・都市デザインの視点
- ◇ 建築史の観点
- ◇ 映画の舞台としてのまちの観点
3点提供をいただき、意見交換を行った。

● 会場全体での意見交換

Q 愛される建物の要素 要因は

・・・A：コメンテーター

A：人が介在している事、身近な存在になる事である。イケフェスで言うと オーナーから直に話を聞いた経験で、場としての環境全体が認識される。 (高岡)

A：住宅での評価は難しい。新しい建築では、生活に如何に根ざしているかで評価をしていきたい。 (栗山)

A：公開性・公共性にこだわらない。リノベーションの動機は機能性を超えたところにある。体験しないと分からないが、映像での追体験は別の意味で評価できる。 (中江)

A：映像作家には想いが伝わる。ロケ地として選ばれる理由は作っている人、使う人の関わりが大事である。 (松下)

(会場より)

※ 神戸市でのアーキテクチャーフェア (1993)、神戸建築物語 (2006 前後) の取り組みについて、一般市民の関心の深さが照会された。

※ 如何に愛され利用されるかで物語性が生まれ、その建築に場の力がついていく。都市計画や行政・民間が共有できる「緩やかな、まち全体のビジョン」が必要であり、意見を出していく機会が求められる。

※ 建築の場の力は建築空間だけでは成り立たない。社会や時代性に加えクリエイトする力がプレイスメイキングを創る。一方、既にプレイスメイキングができている場合はこれを自覚して作っていく必要がある。設計者には総合的にクリエイトする力が求められる。

● 閉会あいさつ 渡邊 一洋 16:50
(兵庫県建築士会まちづくり委員会委員長)



講演後の意見交換の場

文：田村 嘉朗 (明石支部) 写真：渡邊 一洋 (姫路支部)

2022 November No.471 番外編

・特別講演会 + ラウンドテーブル どこにいったの建築の場の力
・番外編では紙面に載せきれなかった内容を個別に掲載致します。

メール配信と名簿のご案内

「集 tsudoï」誌面に掲載できない情報などを「兵庫県建築士会メールニュース」として配信しています。受信希望の方はホームページからメール配信登録してください。またホームページの名簿への掲載を希望される方は会員建築士名簿のページからお手続きください。

